

2025年 7 月 1 日

2025 年も後半に突入しました。2025 年と言えば、トランプ政策や大阪関西万博が表に出てますが、実はその影に「2025 年の崖」という言葉があるんですよ。

この「2025 年の崖」という言葉は、経済産業省が 2018 年にレポートの中で初めて出した言葉なんです。その当時、デジタルシフトが進んでおり、国内の各企業の基幹システムは老朽化して、そのデジタルシフトへの対応をしていくには複雑化・肥大化しないといけなくなるという問題、そしてそれらのシステムの大半は古いプログラミング言語で書かれており、対応できるシステムエンジニアが高齢化して引退してしまうという問題があって、そのまま 2025 年を迎えれば、日本国内で 12 兆円もの経済損失が発生する、というリスクが「2025 年の崖」なんですよ。巨大な損失が下へゴーンと発生するから「崖」となるわけです。

そうならないように、ということで、数年前からDX、つまりデジタルトランスフォーメーションをやらないといけないとなっているんですよ。で、各社がそれなりにDXを進めてきました。当社も含めてですが。

ですから、おそらく、今年 2025 年の経済損失は 12 兆円まではいかないだろうなあと、ある程度低く抑えられるんじゃないかと思ってはいるのですが、この結果というのは、後になって分かることなので、その時に見てみたいと思います。

いずれにしても、この 2025 年がシステムにとって大きなポイントとなることでしょう。

そんな最中、当社は本日より新しい基幹システムをスタートします。

前の基幹システム「モルツ」は、先程申し上げたように、デジタルシフトへの対応が迫られ、複雑化や肥大化もいずれ限界がきますし、古いプログラミング言語で書かれていますから、これを改善や修復をするには、社内に対応できる主業員はいずれ全くなりなくなります。ということで、今回、基幹システムの入替となりました。

同業他社も順次基幹システムを入れ替えていっています。知名度の高いシステムを導入した同業他社さんから話を聞くと、「良いシステムで、いろんな機能があっていいことは分かっているんだけど、使いこなせてないんだよなあ」という意見が多いです。「どのくらい使いこなせているんですか？」と聞くと、「20%~30%くらいしか使えてませんね」という返答もまた多いんです。

いやあ、もったいないですよ。せっかくいいシステムを入れているのに使いこなせていないというのは。使う人に問題があるのか、システムを作った側に問題があるのか、定かではありませんが、使いこなせていないというのはもったいない。当社はみんなで80%~100%くらい使いこなしていきたいものです。

前の基幹システム「モルツ」は、スタート時点では、ひどい言われ方をしました。「こんなシステム使えるかー」とかね。でも、皆さんが使いこなすことによって、近年は惜しむ声が後を絶たないくらいに愛されたシステムになりましたよね。

今回の新しい基幹システムも、皆さんで使いこなしていったって、愛されるシステムになることを願っております。

以上

代表取締役社長 角高哲治